

1月

月間指導計画

0歳児



保育目標		ひとりひとりの様子を見ながら、抱っこなど触れ合う機会を沢山作り、安心して過ごせるようにする。			
子どもの姿		年末年始の休み明けで、体調が変化しやすくなっている。 よく泣くなどして情緒が不安定になる子もいる。			
年間区別		ねらい	環境・構成	予想される子どもの活動	配慮事項
養護	生命	ズボンを自分ではこうとする。	トイレ内に椅子を用意し、座ることでズボンに足を通しやすくする。	保育士に手伝ってもらいながら、少しずつ自分で出来ることに喜びを感じている。	自分で着脱しやすいよう、上下が分かれた服や柔らかい素材のズボンを、保護者の方に用意していただく。
	情緒	抱っこなど触れ合いによって安心して過ごす。	子どもたちが安心できるよう、保育士はゆったりとした気持ちで関わる。	よく泣くなどして不安を訴える子もいる。	ひとりひとりの様子に合わせて、1対1での活動を増やす。
教育	健康	ひとりひとりの体調の変化に合わせて、無理のない活動をする。	衣服の調整や、検温をこまめに行う。 年末年始の過ごし方について、保護者の方から聞き取りをしておく。	年末年始の疲れから、体調の変化が見られる。	体調の変化があった時に、保護者の方の連絡先に変更が無いか、改めて確認しておく。
	人間関係	保育士や友だちと同じことをして楽しむ。	「○○ちゃんだよ」「一緒だね」など、子どもの気持ちに寄り添って代弁する。	歩きながらその場で回るなど、偶然同じことをして楽しんで経験を、何度もやってみることで喜び合っている。	保育士も同じことを繰り返し行ったり遊ぶことで、子どもたちの気持ちを共有する喜びを伝えていく。
	環境	快適な室温の部屋で、裸足で歩行活動を楽しむ。	床暖房を使用し、裸足でものびのびと歩行が出来るようにする。	まだ歩行が確立していない子もいる。	歩行が確立していない子には、箱押し遊びの箱を用意し、活動しやすくする。
	言語	わらべうたや、タッチング遊びを楽しむ。	情緒の安定につながるよう、タッチング遊びを取り入れる。	もう一回、としぐさで伝えている。 何度も行うことで安心感を感じている。	なかなか自分から「やって」と伝えるににくい子もいるので、積極的に保育士が関わる。
	表現	だるまが題材の絵本を読み、だるまの様子を体全体で真似をして楽しむ。	子どもたちが親しみを持てるよう、絵本を読みながらだるまのしぐさを保育士が真似してみる。	保育士やだるまの様子を見て笑っている。 体全体で真似をして、楽しんでいる。	表現する時に、子ども同士の手がぶつかったりなどのトラブルを防ぐため、距離感など気を配る。
食育		手づかみで食べたり、スプーンを使って食べたりする。	ひとりひとりの状況に合わせて、手づかみ用のおにぎりやスティック野菜、スプーン用の小皿などの準備を、調理員へお願いしておく。	保育士に見守られながら、自分から手づかみ食べをしたり、スプーンを使って食べようとする。	出来た事を十分に認め、まだ難しい所は介助スプーンを使ったり、スプーンに手を添えるなどして、個別に対応していく。
健康・安全		休み明けで久しぶりの登園となるので、心身の健康に気を配り、落ち着いて過ごせるよう、抱っこなど保育士との触れ合いの機会を沢山作る。			
保護者支援		ズボンの着脱をやってみようとする子もいるので、子どもが自分で着脱しやすい素材のズボンを用意していただく。			